

サゴヤシ学会とマレーシア・マラ工科大学のMOU締結

2017年10月2日～6日に、マレーシア・サラワク州クチンのリバーサイドマジェスティックホテルにおいて、マラ工科大学をホストとして第13回国際サゴシンポジウム The 13th International Sago Symposium “Partnership in Cooperation and Management of Sago Palm” が開催されました。今回の国際シンポジウムの開催に当たっては、日本からはサゴヤシ学会の会員8名がテクニカルコミッティーメンバーとして加わって運営を支援するとともに、開催地へは4名が赴き、キーノート、プレナリーセッションなどで講演を行いました。

サゴヤシ学会とマレーシアのマラ工科大学は、2015年より日馬間の連携について協議してきましたが、この度の国際サゴシンポジウムを機に、国際共同研究教育交流推進のためのMOUを締結しました。両国でサゴヤシ研究に携わる若手研究者の育成も含め、2国間の協力関係を強化していく予定です。

サラワク州副首相による開会宣言で始まった2日間の講演プログラムは、連邦政府のプランテーション産業・商品省副大臣が、2000万リンギット(約5億6千万円相当)を国際サゴヤシ研究センターの設置と小農支援に充てるとの、大臣からのメッセージを披露して幕を下ろしました。今後、サゴ産業の育成に向け生産国の各レイヤーにおいて、関係機関等との連携を深めていきたいと思えます。

(江原 宏)



サゴヤシ学会長(名古屋大学 江原)、副会長(立教大学 豊田由貴夫副総長)とマラ工科大学のダトゥ・ジャミル・ハマリ学長、ランダ・マディ副学長によるMOU調印式

The Thammasat Honorary Plaqueの受賞

2017年6月27日に、協力ネットワーク研究領域の江原宏教授がタイ王国のタマサート大学より、“Honorary Award: The Thammasat Honorary Plaque”を授与されました。タマサート大学はタイを代表する2番目に古い国立大学であり、4つのキャンパスに13学部を要し、日本との交流にも長い歴史を有していますが、江原教授は2004年より、自然科学から社会科学まで幅広い分野において、留学生、国際インターンシップ学生の受け入れや派遣、日泰両国の若手研究者育成支援プログラムの創設と運営に取り組んできました。また、タイにおける日本の大学のリエゾンオフィスや教育研究センターの開設にも尽力されました。このような長年にわたる日泰間の国際学術教育交流における貢献が高く評価され、この度の受賞につながりました。かつて、江原教授の指導を受けて日本で博士の学位を取得した研究者が、現在、タイの4つの国立大学で教員として活躍しています。日本でも、タイでの国際交流活動に参加した経験者が産官学の各界で活躍しています。今後は、それらの方々と共に、国際研究ネットワークの強化とそれに基づく国際教育の展開をより一層推進していただけることと思えます。

(楨原大悟)



かつての指導生に祝福される江原教授